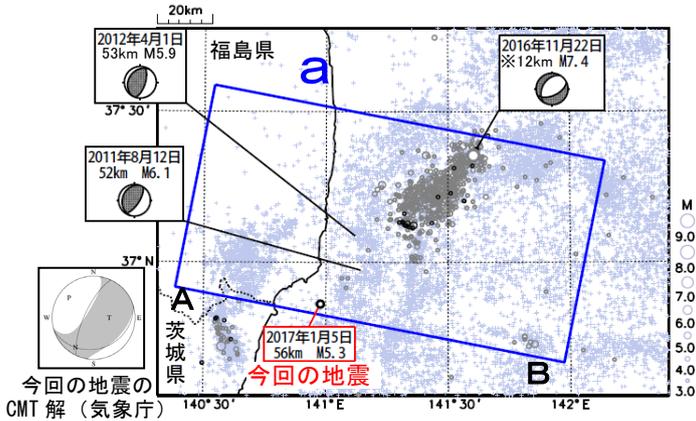


# 1月5日00時43分 福島県沖の地震

## 震央分布図

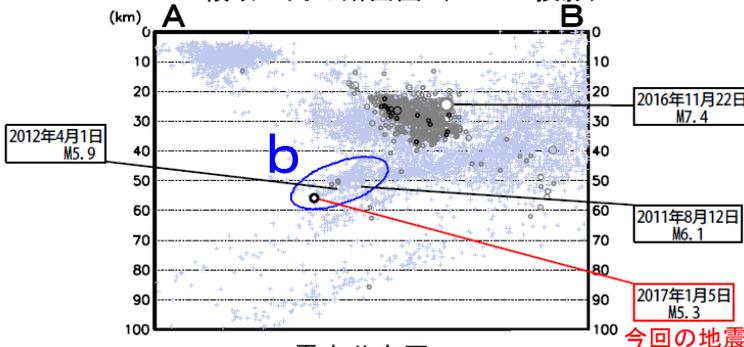
(1997年10月1日～2017年1月5日、  
深さ0～100km、 $M \geq 3.0$ )

2016年11月21日以前に発生した地震を+、  
11月22日以降に発生した地震を薄い○、  
2017年1月以降に発生した地震を濃い○で表示  
図中の発震機構はCMT解



※2016年11月22日の地震 (M7.4) の深さはCMT解  
また、この地震の発生直後には、未処理の地震が存在  
している。

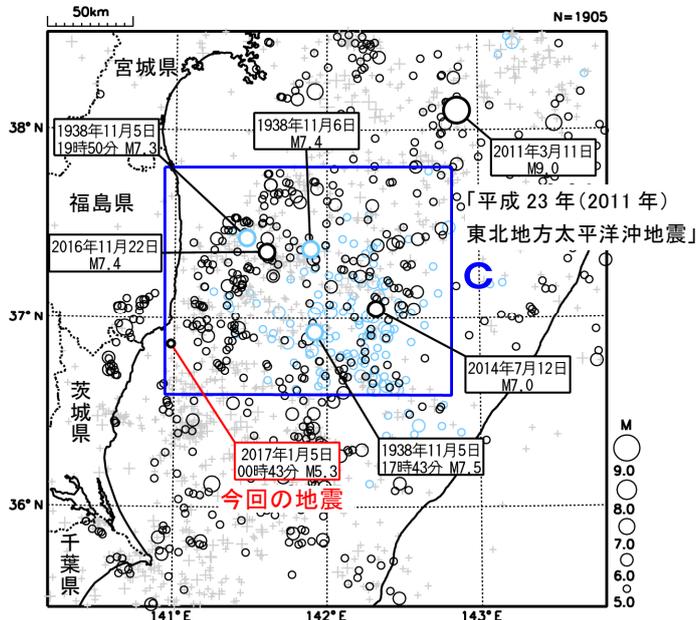
## 領域a内の断面図 (A-B投影)



## 震央分布図

(1923年1月1日～2017年1月5日、  
深さ0～150km、 $M \geq 5.0$ )

1938年11月1日～12月31日に発生した地震を○、東北地  
方太平洋沖地震発生以降に発生した地震を濃い○、  
それ以外を薄い+で表示

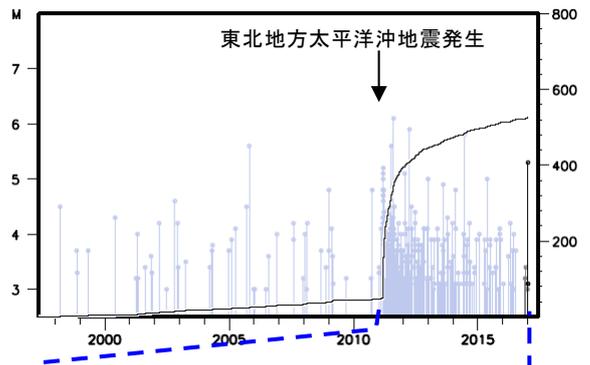


2017年1月5日00時43分に福島県沖の深さ56kmでM5.3の地震 (最大震度4) が発生した。この地震の発震機構は北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界付近で発生した。

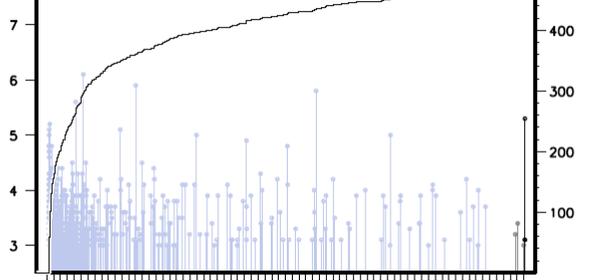
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近 (領域b) では、東北地方太平洋沖地震の発生以降、地震活動が活発化しており、2011年8月12日にM6.1 (最大震度5弱) が発生するなど、M5.0を超える地震が時々発生している。

1923年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺 (領域c) では、1938年11月5日にM7.5の地震が発生して以降、地震活動が活発となり、同年11月30日までにM6.0以上の地震が25回発生している。

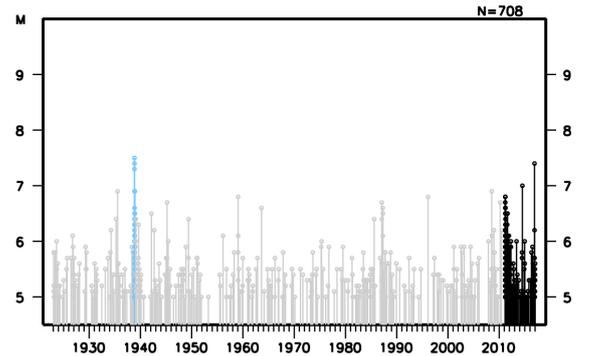
## 領域b内のM-T図及び回数積算図



## (2011年3月1日～2017年1月5日)



## 領域c内のM-T図

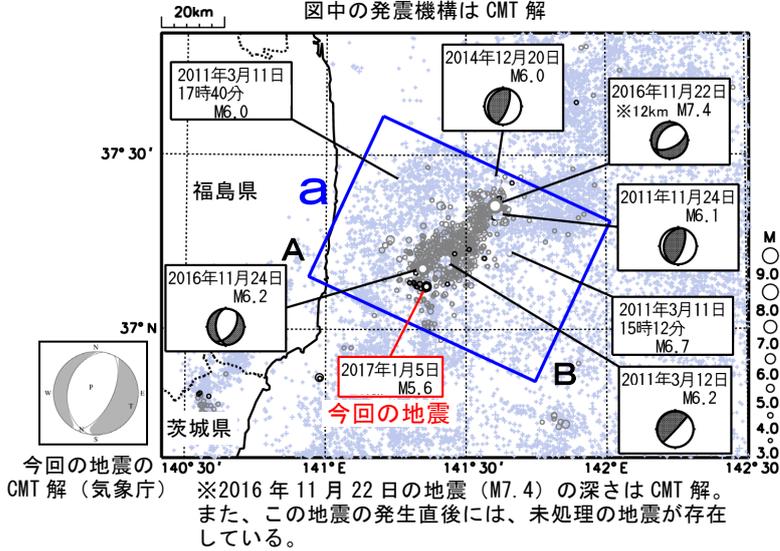


# 1月5日02時53分 福島県沖の地震

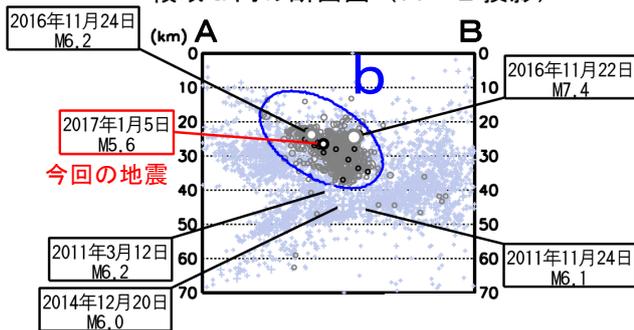
## 震央分布図

(1997年10月1日~2017年1月5日、  
深さ0~70km、 $M \geq 3.0$ )

2016年11月21日以前に発生した地震を+、  
11月22日以降に発生した地震を薄い○、  
2017年1月以降に発生した地震を濃い○で表示  
図中の発震機構はCMT解



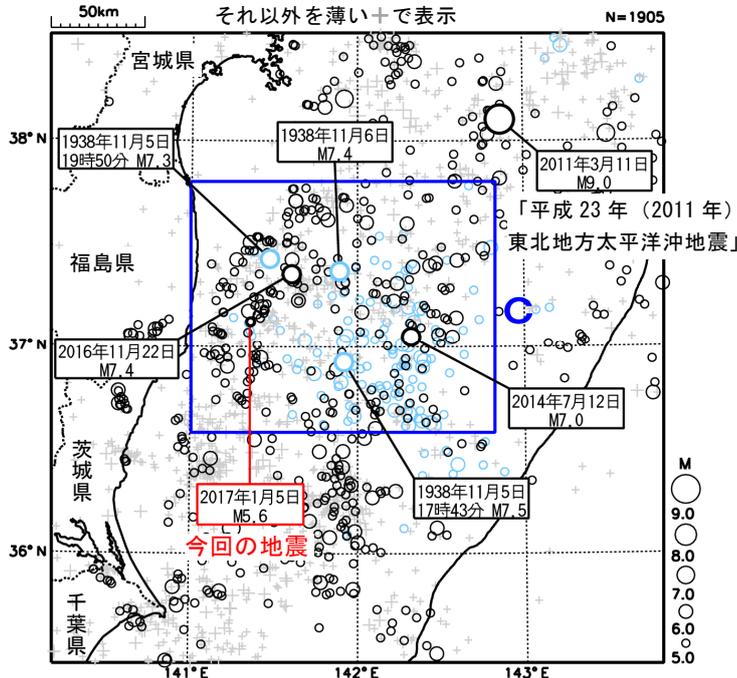
## 領域a内の断面図 (A-B投影)



## 震央分布図

(1923年1月1日~2017年1月5日、  
深さ0~150km、 $M \geq 5.0$ )

1938年11月1日~12月31日に発生した地震を○、  
東北地方太平洋沖地震発生以降に発生した地震を濃い○、  
それ以外を薄い+で表示

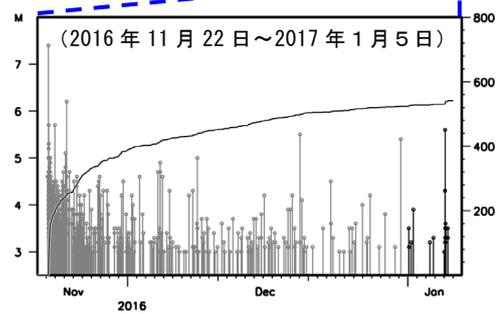
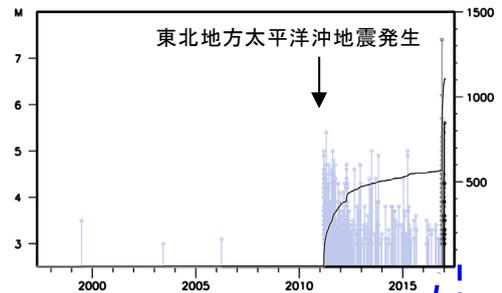


2017年1月5日02時53分に福島県沖でM5.6の地震(最大震度4)が発生した。この地震の発震機構は西北西-東南東方向に張力軸を持つ正断層型で、陸のプレートの地殻内で発生した。この地震の震源付近(領域b)では、2016年11月22日にM7.4の地震が発生後、地震活動が活発となり、1月5日までにM5.0以上の地震が14回発生している。

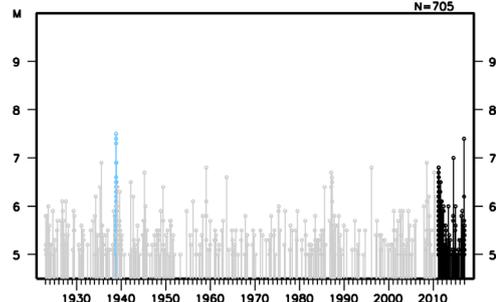
197年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近(領域b)では、東北地方太平洋沖地震が発生して以降、活発な地震活動が見られ、M5.0以上の地震が19回発生した。

1923年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(領域c)では、1938年11月5日にM7.5の地震が発生して以降、地震活動が活発となり、同年11月30日までにM6.0以上の地震が25回発生している。

## 領域b内のM-T図及び回数積算図



## 領域c内のM-T図

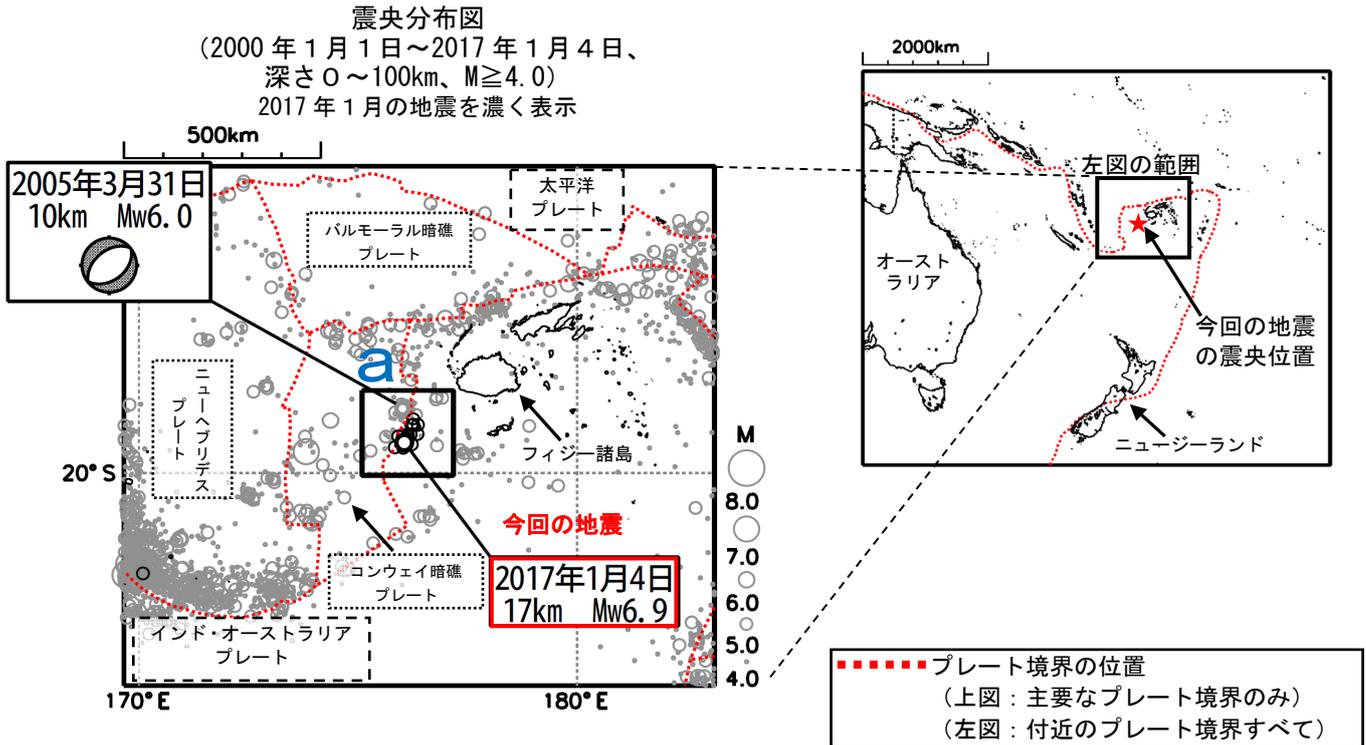


# 1月4日 フィジー諸島南方の地震

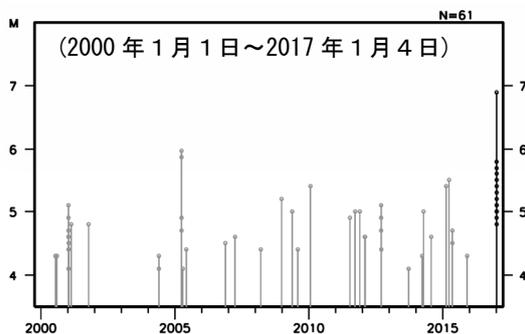
2017年1月4日06時52分（日本時間、以下同じ）にフィジー諸島南方の深さ17kmでMw6.9の地震が発生した。この地震の発震機構（気象庁によるCMT解）は、西北西-東南東方向に張力軸を持つ正断層型であった。フィジー諸島周辺では、複数のプレートが入り組んでいて、複雑な力がかかっている。

気象庁は、今回の地震について、4日07時17分（日本への津波の影響なし）に遠地地震に関する情報を発表した。この地震により、フィジー諸島で1cmの津波を観測した。

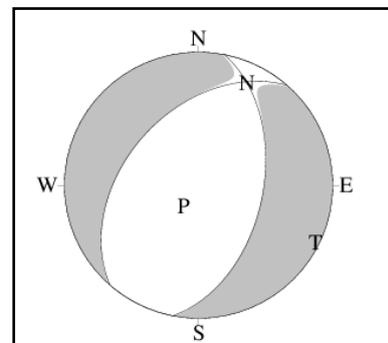
2000年1月以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域a）では、今回の地震とほぼ同じ発震機構で、2005年3月31日の地震（Mw6.0）が発生したが、今回の地震が最大規模の地震であった。



領域a内のM-T図



今回の地震のCMT解 (気象庁)



※本資料中、今回の地震の発震機構とMwは気象庁による。2005年3月31日の地震の発震機構とMwはGlobalCMTによる。震源要素とその他の地震のMwは米国地質調査所(USGS)による。今回の地震の津波観測については、アメリカ海洋大気庁(NOAA)による(1月5日現在)。プレート境界の位置と進行方向はBird(2003)\*より引用。

\*参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.